

ナサニエル・ホーソーン研究
Working Check-List: 2002-2003

矢作三蔵 (学習院大学)
川村幸夫 (東京理科大学)

I. Books

- 土田訓康(編) 『ホーソーンとソファイア』(愛知文教大学叢書 4) 愛知文教大学 (2003 年)
佐藤孝己(訳) エドウィン・ハヴィランド・ミラー著『セイレムは私の住み処
——ナサニエル・ホーソーン伝——』近代文芸社 (2002 年)

II. Bibliographies

III. Translations

- 大野一之(訳) 「マイケル・ダン：映画の『緋文字』——解釈としての脚色の 90 年——」
『愛媛大学法文学論集 人文科学編』14 (2003 年), pp.143-
中村栄造(訳) 「ナサニエル・ホーソーン「ウィリアム・フィプス卿」」『名城大学人文紀要』38(1)
(2002 年), pp. 39-45.

IV. Articles

- 青井格 「緋文字を読む者, 『緋文字』を読む者」『近畿大学九州工学部研究報告』30
(2002 年), pp. 127-31.
青山義孝 「『緋文字』を読む：その 4」『甲南大学紀要 文学編』120 (2001 年), pp. 22-61.
稲垣伸一 「*The Blithedale Romance* における医療改革とメスメリズム」『アメリカ文学』
日本アメリカ文学会東京支部会報 63 (2002 年), pp. 38-45.
小林史子 「ラバチーニ博士への手紙, あるいは「ラバチーニの娘」覚書ノート」『大妻
女子大学紀要 文系』34 (2002 年), pp. 25-34.
佐々木英哲 「Engendering Empathy for the De-gendered: Hawthorne in *The Scarlet
Letter*」『英米評論』16 桃山学院大学英語英米文学会 (2001 年), pp. 3-32.
白川恵子 「扇動する牧師——Hawthorne, Dixon, Weems にみる犯罪物語の系譜——」
『和洋女子大学英文学会誌』36 (2002 年), pp. 13-27.

- 新堀孝 「「牧師の黒いヴェール」について——その意図を考察する——」『白山英米文学』26 東洋大学文学部 (2001 年), pp. 65-76.
- 須藤祐二 「変容する Coverdale——*The Blithedale Romance* における「物語」——」『英文学誌』44 法政大学英文学会 (2002 年), pp. 47-74.
- 高尾直知 「ホーソン氏, 都に行く」『アメリカ文学ミレニアム』I 南雲堂 (2001 年), pp. 189-209.
- 高橋章 「ナサニエル・ホーソンの『緋文字』における罪と罰」『国際関係研究』22(4) 日本大学国際関係学部国際関係研究所 (2002 年), pp. 253-70.
- 高橋利明 「Zenobia の "passionate love" について——*The Blithedale Romance* 論」『英文学論叢』50 日本大学英文学会 (2002 年), pp. 139-54.
- 角地里絵 「ホーソン文学における Dark Lady の萌芽と発展——Catharine から Hester へ——」『KRITIKOS』18/19 KRITIKOS 同人 (2001 年), pp. 19-32.
- 遠山えり子 「「ウェイクフィールド」再考」『九州ルーテル学院大学紀要』28 (2001 年), pp. 173-83.
- 中村敬子 「ホーソンのアンビヴァレンス——ピューリタニズムの精神を巡って——」『英文学』85 早稲田大学英文学会 (2003 年), pp. 18-31.
- 「『緋文字』のディムズデイル——その自省の限界——」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』46(2) (2001 年), pp. 3-10.
- 中村文紀 「ホーソン作品と引き裂かれたアイデンティティ——「ラパチーニの娘」の場合——」『EVERGREEN』23 昭和女子大学大学院英米文学研究会 (2002 年), pp. 57-64.
- 中村正広 「Henry Hughes and Hawthorne: The South in the Social Dynamics of Controversy」『愛知教育大学研究報告 人文・社会科学』51 (2002 年), pp. 89-98.
- 西山里枝 「犯した罪に苦しむ牧師の物語——『緋文字』小論——」『EVERGREEN』23 昭和女子大学大学院英米文学研究会 (2002 年), pp. 27-40.
- 根本治 「ホーソンと十七世紀神学書」『アメリカ文学ミレニアム』I 南雲堂 (2001 年), pp. 168-88.
- 東田敏夫 「"Sylph Etherege" を読む」『川村短期大学紀要』21 (2001 年), pp. 17-21.
- 堀切大史 「「憑かれた心」を読む——ホーソン作品における時間と空間の考察——」『ふぉーちゅん』13 新言語文化研究会 (2002 年), pp. 77-86.
- 水野尚之 「告白のレトリック——Henry James の *Autobiography*——」『Albion』復刊 48 京都大学英文学会 (2002 年), pp. 89-103.
- 八木敏雄 「姦通小説としての『緋文字』」『アメリカ文学ミレニアム』I 南雲堂 (2001 年), pp. 145-67.
- 張麗 「More Sinned Against: Adultery in *The Woman Warrior* and *The Scarlet Letter*」『環太平洋女性学研究会会報』5(1) (2002 年), pp. 60-74.

Bowes, Kate 「Reading and Reweaving the Wor(l)d: Hester Prynne and the Scarlet Letter」 『ノートルダム清心女子大学紀要 外国語・外国文学編』 26(1) (2002 年), pp. 83-92.

V. Reviews

丹羽隆昭 「齋藤忠利(編)『緋文字の断層』」 『アメリカ文学研究』 39 日本アメリカ文学会 (2003 年), pp. 128-34.

Takemura, Kazuko, 「From Masturbatory/Authorship Discourse Analysis to Hawthorne Primers for Juveniles」 『事務局だより』 21 (2003 年), pp. 11-12.

VI. Essays & Miscellanies

青山義孝 「編集室だより」 『事務局だより』 21 (2003 年), p. 14.

阿野文朗 「国際渉外室だより」 『事務局だより』 21 (2003 年), pp. 15-19.

入子文子 「関西研究会(Kansai Salon)」 『事務局だより』 21 (2003 年), p. 13.

大杉博昭 「九州支部研究会(Kyushu Chapter)」 『事務局だより』 21 (2003 年), pp. 13-14.

川窪啓資 「会長挨拶——ホーソン生誕二百年を1年半後に控えて——」

『事務局だより』 21 (2003 年), p. 1.

—— 「ホーソン生誕二百年記念論文集刊行について」 『事務局だより』 21 (2003 年), pp. 20-24.

倉橋洋子 「名古屋研究会(Nagoya Salon)」 『事務局だより』 21 (2003 年), p. 13.

齋藤昇 「追悼鈴木重吉先生」 『事務局だより』 21 (2003 年), p. 18.

齋藤幸子 「日本ナサニエル・ホーソン協会会計報告」 『事務局だより』 21 (2003 年), p. 19.

佐藤光重 「三つの家系——ホーソン, ピンチョン, ムーディー——」 『英語青年』 2003 年 1 月号, p. 17.

當麻一太郎 「事務局だより」 『事務局だより』 21 (2003 年), pp. 16-17.

—— 「東京談話会(Tokyo Salon)」 『事務局だより』 21 (2003 年), pp. 12-13.

矢作三蔵 「資料室だより」 『事務局だより』 21 (2003 年), p. 15.

遊佐重樹 「仙台談話会(Sendai Symposium)」 『事務局だより』 21 (2003 年), p. 12.

Ano, Fumio, 「Introducing Professor T. Walter Herbert」 『事務局だより』 21 (2003 年), pp. 4-5.

Herbert, T. Walter, 「Lecture: Pornographic Manhood and *The Scarlet Letter*」

- 『事務局だより』21 (2003年), pp. 5-7.
- Horikiri, Hirofumi, 「Reading Poe's "The Cask of Amontillado" as a Tale of Initiation」
『事務局だより』第21号(2003年), pp. 1-2.
- Niwa, Takaaki, 「Symposium: Reconsideration of *The Brithedale Romance*」
『事務局だより』21 (2003年), pp. 7-8.
- Noriguchi, Shinichiro, 「若い Hawthorne 文学研究家の紹介」『事務局だより』21 (2003年),
pp. 8-11.
- Ohsugi, Hiroaki, 「5. Sophia/Margaret—Nathaniel's Choice Part 2」『事務局だより』21
(2003年), pp. 3-4.
- Okumura, Tomoko, 「"I" Reference of *The Bostonians*」『事務局だより』21 (2003年),
pp. 2-3.
- Shimada, Taro, 「Poe's Choice of Character's Name in Some Stories」『事務局だより』21
(2003年), p. 4.

VII. (新たに資料室に寄贈された著書・雑誌・論文等)

- 土田訓康(編) 『ホーソンとソファイア』(愛知文教大学叢書4)愛知文教大学(2003年)
- 日本マーク・トウェイン協会(編) 『マーク・トウェイン 研究と批評』1南雲堂(2002年)
- 稲垣伸一 「*The Blithedale Romance*における医療改革とメスメリズム」『アメリカ文学』
日本アメリカ文学会東京支部会報63(2002年), pp. 38-45.
- 堀切大史 「「憑かれた心」を読む——ホーソン作品における時間と空間の考察——」
『ふぉーちゅん』13新言語文化研究会(2002年), pp. 77-86.
- 水野尚之 「告白のレトリック——Henry James の Autobiography——」『Albion』復刊48
京都大学英文学会(2002年), pp. 89-103.

追記

記載漏れの論文等もあろうかと心配しています。気を付けたつもりですが、過去のチェックリストに重複記載のものもあるかも知れません。お気づきの点などございましたら、資料室担当者までご一報下さい。なお、論文等ご執筆の折には、資料室に一部お送りいただくか、タイトルなどをご連絡いただければ幸いです。(川村)